

江戸バス利用者実態

<目次>

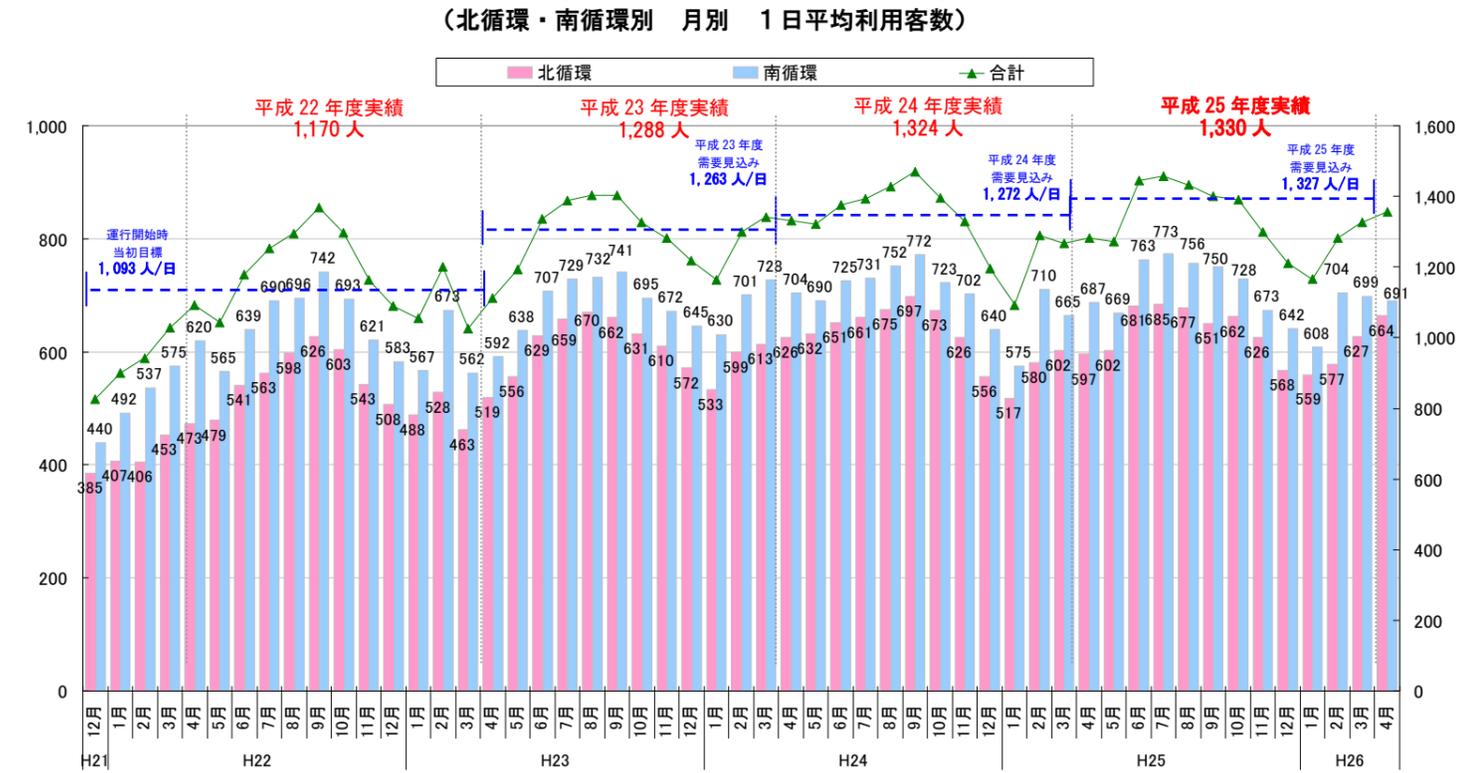
I 江戸バスの利用実態	1
I-1. 北循環・南循環別の利用客数の状況.....	1
I-2. 平日・土日祝日別の利用客数の状況.....	1
I-3. 運行事業補助金額.....	1
II 利用実態調査の概要	2
II-1. 調査目的.....	2
II-2. 調査概要.....	2
II-3. 配布実績.....	2
II-4. 回収数・回収率.....	2
III 利用実態調査結果	3
III-1. 利用客数調査結果	3
① バス停別利用客数【北循環】.....	3
② バス停別利用客数【南循環】.....	5
③ 時間帯別1台あたりの平均利用客数【北循環】.....	7
④ 時間帯別1台あたりの平均利用客数【南循環】.....	9
III-2. アンケート調査結果	11
① 利用者の方の属性.....	11
② 利用実態.....	11
③ 運行仕様に対する満足度及び重要度.....	12
④ 江戸バス導入時の基本方針の達成度.....	13
⑤ 江戸バスを知ったきっかけ.....	13
⑥ 今後の利用意向.....	13
⑦ 土日・祝日の利用について.....	14
⑧ 運行してほしい区間について.....	14

1 江戸バスの利用実態

1-1. 北循環・南循環別の利用客数の状況

- ・平成21年12月の運行開始から平成26年3月までの利用実績をみる。
- ・年度ごとの1日平均利用客数を比較すると、平成22年度1,170人/日、平成23年度1,288人/日、平成24年度1,324人/日、平成25年度1,330人/日となっており、利用客数は年々増加している。一方、伸び率は昨年度に比べて低くなっている。
- ・北循環・南循環別に比較すると、北循環は平成22年度の533人から平成25年度の626人まで徐々に増加しており、南循環は平成22年度の636人から平成25年度は704人と700人を越えている。北循環に比べて南循環の方が利用客数が多い。
- ・北循環・南循環ともに夏季に利用客数が増加しているが、一方で12月～1月に減少する傾向にある。

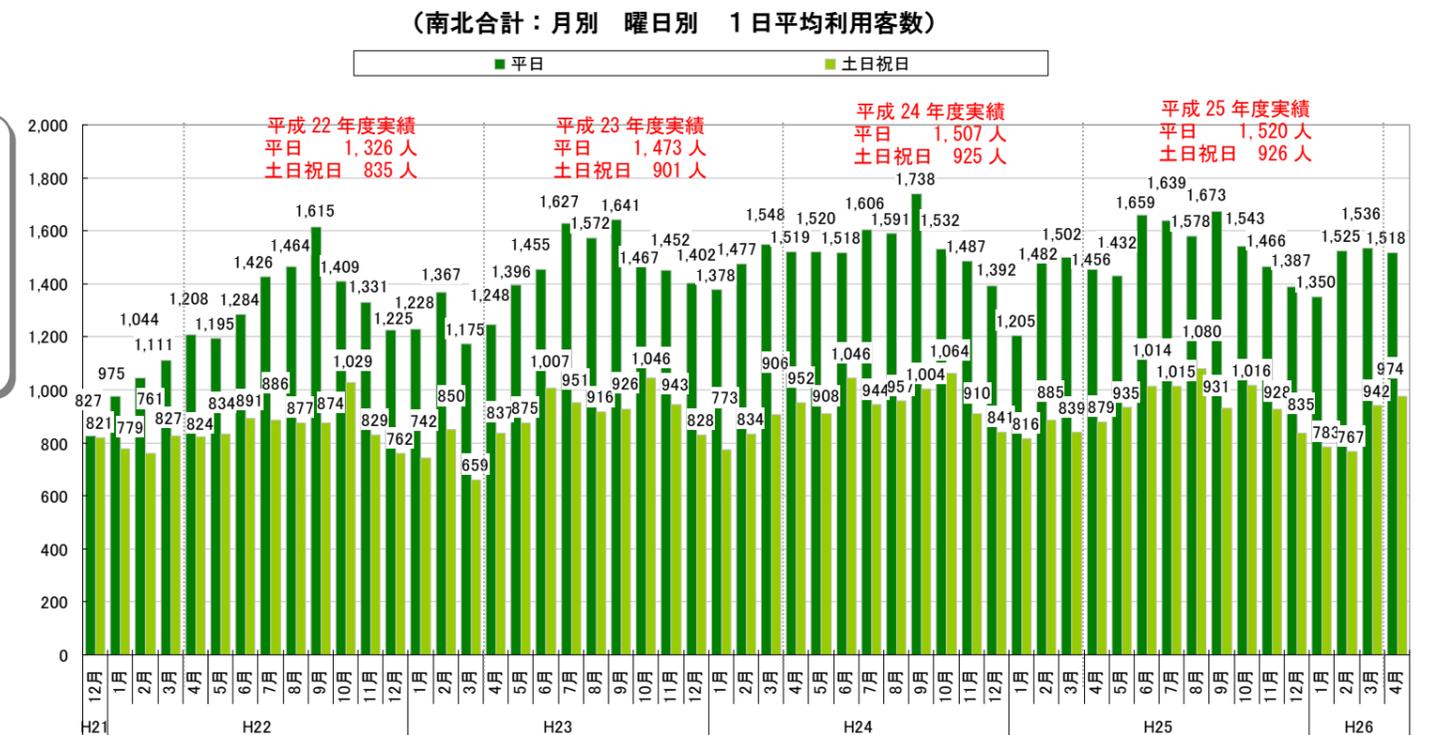
	乗車人数			1日平均乗車人数		
	北循環	南循環	合計	北循環(前年度増減率)	南循環(前年度増減率)	合計(前年度増減率)
平成22年度	192,572	229,722	422,294	533(-)	636(-)	1170(-)
平成23年度	220,576	249,689	470,265	604(113%)	684(108%)	1288(110%)
平成24年度	227,457	254,318	481,775	625(103%)	699(102%)	1324(103%)
平成25年度	227,949	256,350	484,299	626(100%)	704(101%)	1330(101%)



1-2. 平日・土日祝日別の利用客数の状況

- ・北循環・南循環別、平日・土日祝日別の1日平均利用客数をみる。
- ・年度ごとの平日・土日祝日別の1日平均利用客数を比較すると、平日は平成22年度1,326人、平成23年度1,473人、平成24年度1,507人、平成25年度1,520人であり、土日祝日は平成22年度835人、平成23年度901人、平成24年度925人、平成25年度926人となっており、平日・土日祝日とも増加しているが、いずれの年度も土日祝日は平日の約6割の利用に留まっている。

	1日平均利用客数		土日祝日の利用割合 (土日祝日/平日)
	平日	土日祝日	
平成22年度	1,326	835	63%
平成23年度	1,473	901	61%
平成24年度	1,507	925	61%
平成25年度	1,520	926	61%



1-3. 運行事業補助金額

- ・補助金額の実績を比較すると、平成24年度(90,009千円)は平成23年度(87,305千円)よりも、約2,704千円増加している。
- ・平成24年度実績額は90,009千円であるが、交付決定額を超えているため、補助金額は87,665千円となっている。

(平成23年度・平成24年度運行事業補助金額内訳)

項目	平成24年度(a)	平成23年度(b)	増減額(a)-(b)
収入	59,479	58,263	1,216
支出	149,488	145,568	3,920
実績額(支出-収入)	90,009	87,305	2,704
補助金額	87,665	87,305	360

(単位:千円)

II 利用実態調査の概要

II-1. 調査目的

利用者のニーズにあった、利用しやすく愛着を持って頂けるコミュニティバスとするため、江戸バス利用者を対象に、『江戸バスの利用実態』『これからも継続的に利用していただくため、更に利用する機会を増やしていただくために必要な課題や改善点』『運行ルートの改善要望』を把握する。

II-2. 調査概要

①調査日

実施日：平成25年7月12日（金）、平成25年7月14日（日）、平成25年7月17日（水）
（平日2日、休日1日）

調査時間：7月12日（金） 7:00～19:48
7月14日（日） 7:58～19:53
7月17日（水） 7:00～19:48

②調査対象路線

北循環、南循環の2路線（平日36本/日×2路線、休日33本/日×2路線）

③主な調査内容

【利用客数調査】

・系統別、運行別に停留所毎の利用客数を乗車、降車別にカウントする。

【アンケート調査】

・利用区間別、停留所別に、利用実態（利用者の属性・利用目的等）を把握する。
・あわせて、現在の運行仕様や基本方針に対する評価、新しい運行ルートに対する要望等の意向を調査する。

<調査方法>

・調査員1名が各車両に乗り込み、運行車内でカウント及びアンケート票を配布する。回収は郵送回収にて行う。
・調査期間中に複数回利用した方は、初めの1回目のみ受け取っていただき、利用実態については、調査日3日間のそれぞれの利用状況を記入していただく。

II-3. 配布実績

①利用客数実績

・調査期間中の利用客数は以下のとおり。

	7月12日(金)	7月14日(日)	7月17日(水)	合計
北循環	870	474	945	2,289
南循環	1,041	568	1,012	2,621
合計	1,911	1,042	1,957	4,910

②アンケート配布実績

・アンケート配布数は、3日間で3,400票程度であり、配布率は70%程度であった。

	7月12日(金)	7月14日(日)	7月17日(水)	合計
北循環	718	349	561	1,628
南循環	800	394	577	1,771
合計	1,518	743	1,138	3,399

II-4. 回収数・回収率

・アンケートの回収数は1,087票であり、回収率は32%である。

配布数 (3日間計)	3,399票
回収数	1,087票
回収率	32%

III 利用実態調査結果

III-1. 利用客数調査結果

① バス停別利用客数【北循環】

【平日】

- ・「中央区役所（発）」「新富二丁目」での乗客数が他のバス停に比べると特に多い。
- ・降客数では、「東京駅八重洲北口」と「中央区役所（着）」が特に多い。

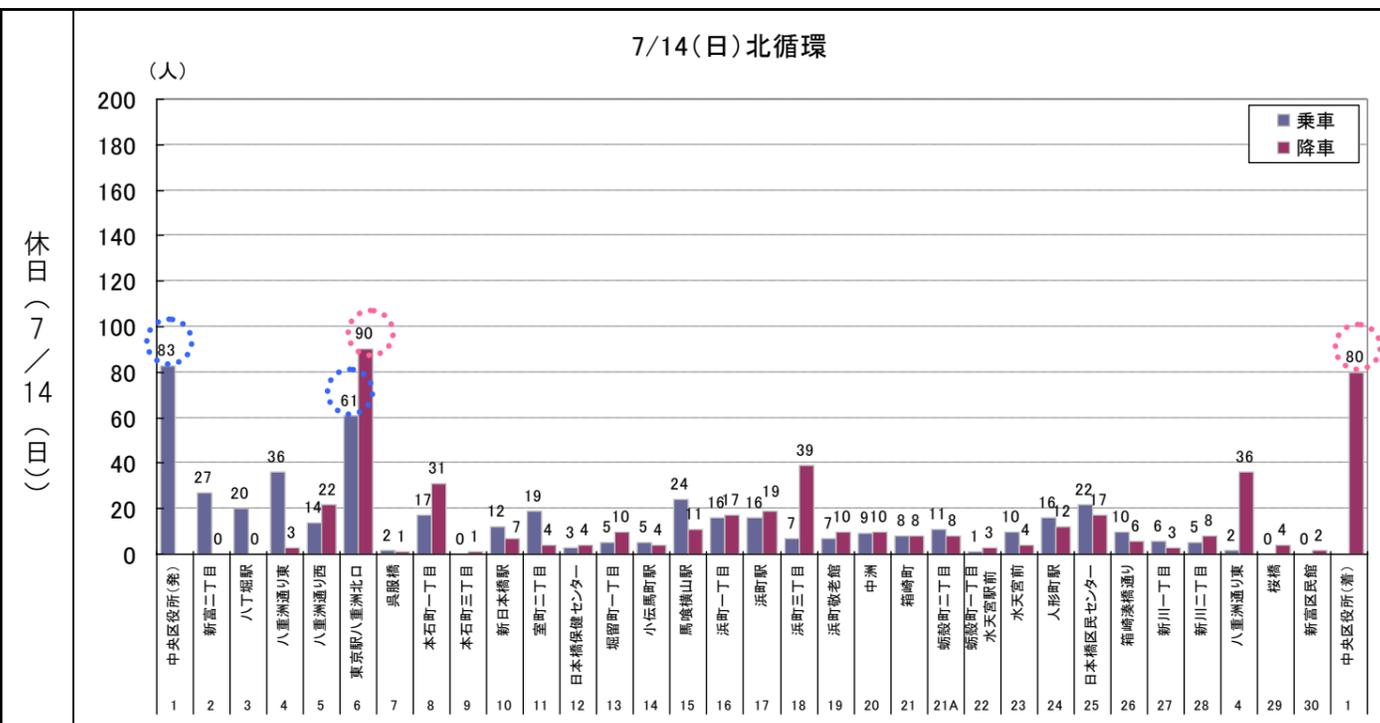
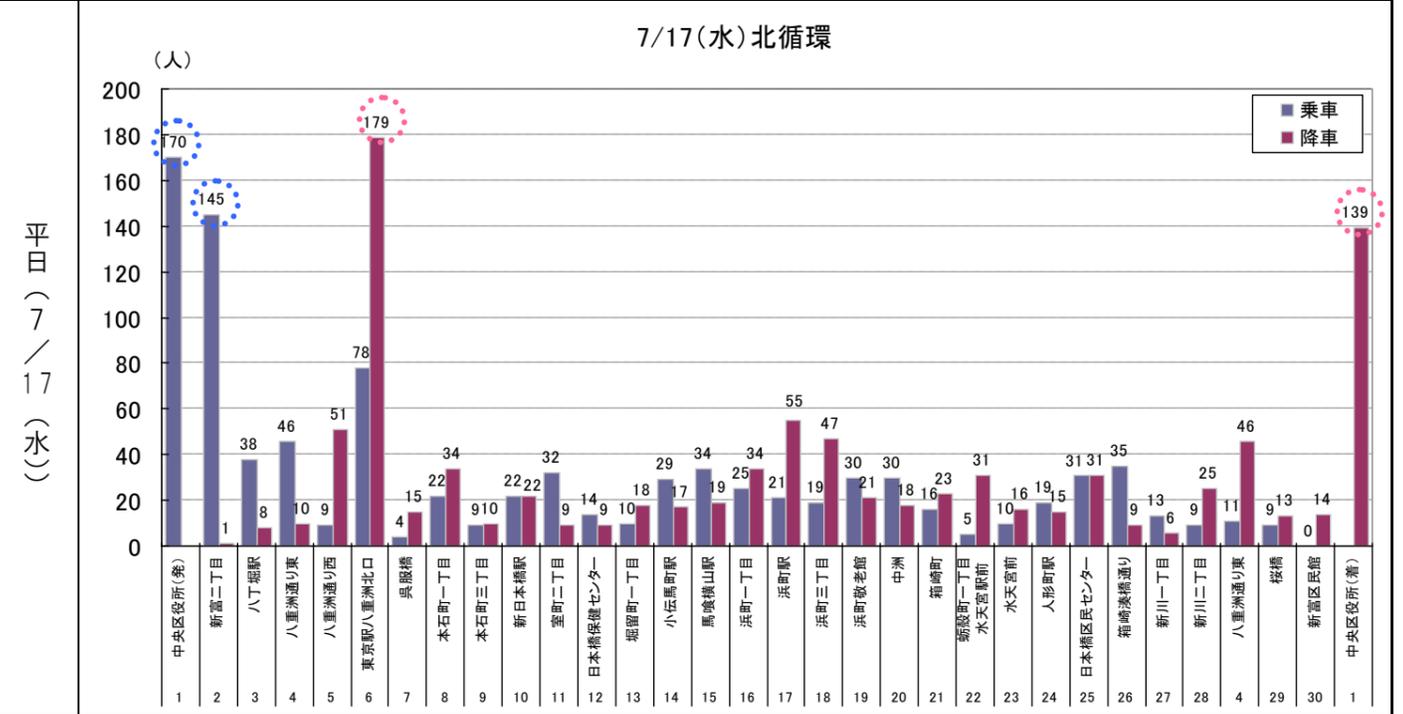
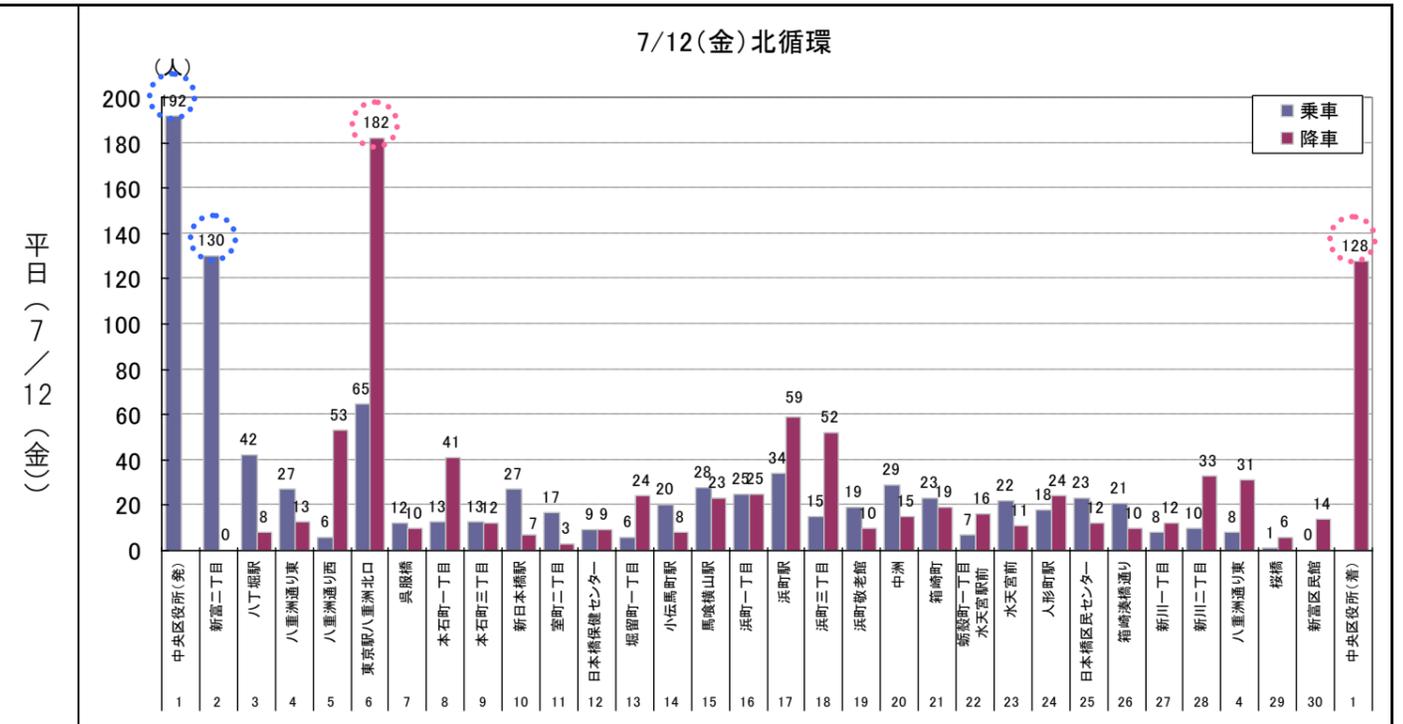
【休日】

- ・休日の乗客数は、「中央区役所（発）」「東京駅八重洲北口」で多く、降客数は「東京駅八重洲北口」「中央区役所（着）」が多い。

【平日と休日の比較】

- ・多くのバス停で、平日に比べて休日は乗降客数が半数程度となっている。しかし、「八重洲通り東」「東京駅八重洲北口」の乗客数、「浜町三丁目」の降客数では、減少の割合が小さい。

● : 乗客数の多いバス停
● : 降客数の多いバス停



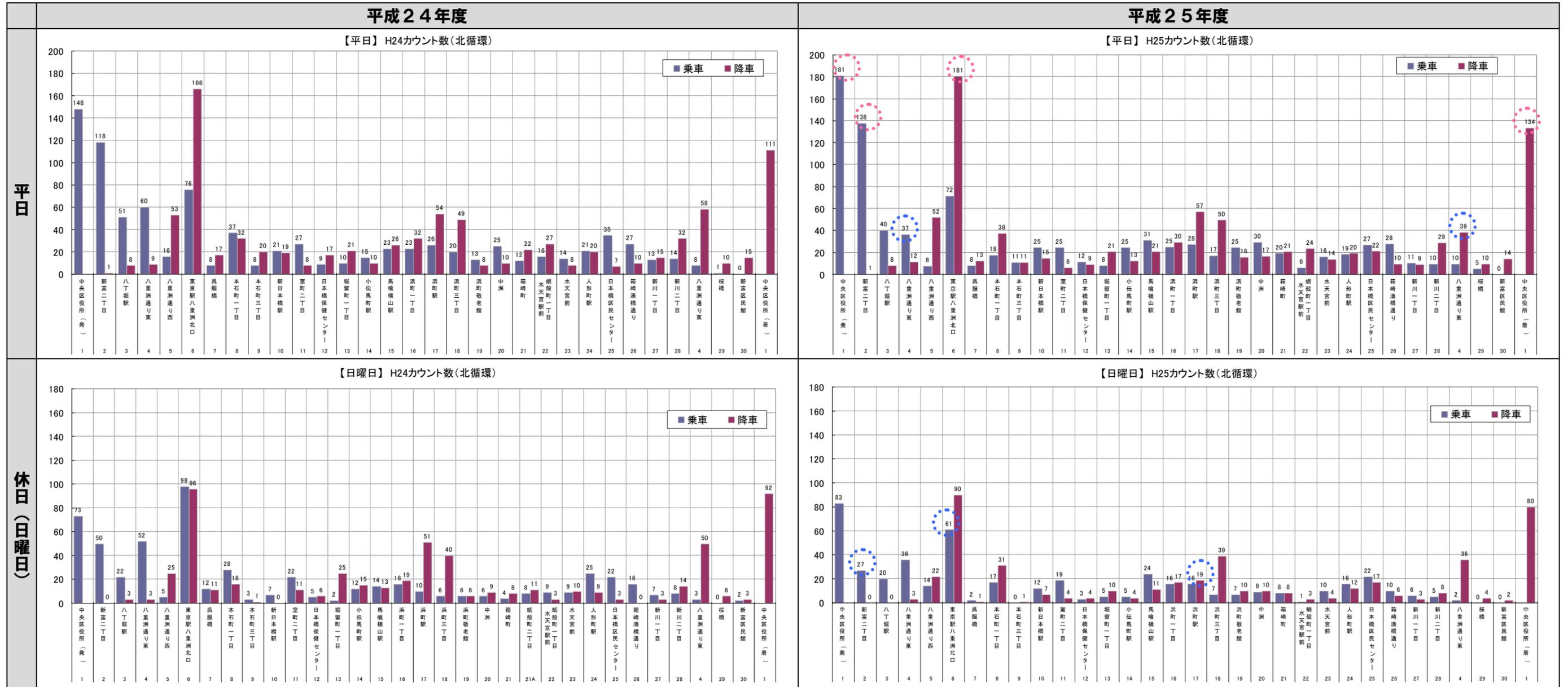
休日 (7/14)

平日 (7/17)

○平成24年度・平成25年度調査時の平日・休日（日曜日）別のバス停別乗降客数の比較【北循環】

- ・平日では、以前から利用客数の多かった「中央区役所（発）」「新富二丁目」での乗客数、「東京駅八重洲北口」「中央区役所（着）」での降客数が特に増加している。一方、「八重洲通り東」での乗降客数は減少している。
- ・休日（日曜日）では、平成24年度調査時に利用客数の多かった「新富二丁目」「東京駅八重洲北口」での乗客数、「浜町駅」での降客数が減少している。

● : 乗降客数が増加したバス停
○ : 乗降客数が減少したバス停



※平成25年の平日は調査日2日間の平均値を用いて比較

② バス停別利用客数【南循環】

【平日】

- ・「中央区役所（発）・（着）」「聖路加国際病院」での乗降客数、「新島橋南」での乗客数が多い。
- ・その他のバス停でも乗客数と降客数をあわせると30人程度のバス停が多く、北循環に比べて南循環の方がバス停間の利用客数の差が小さい。

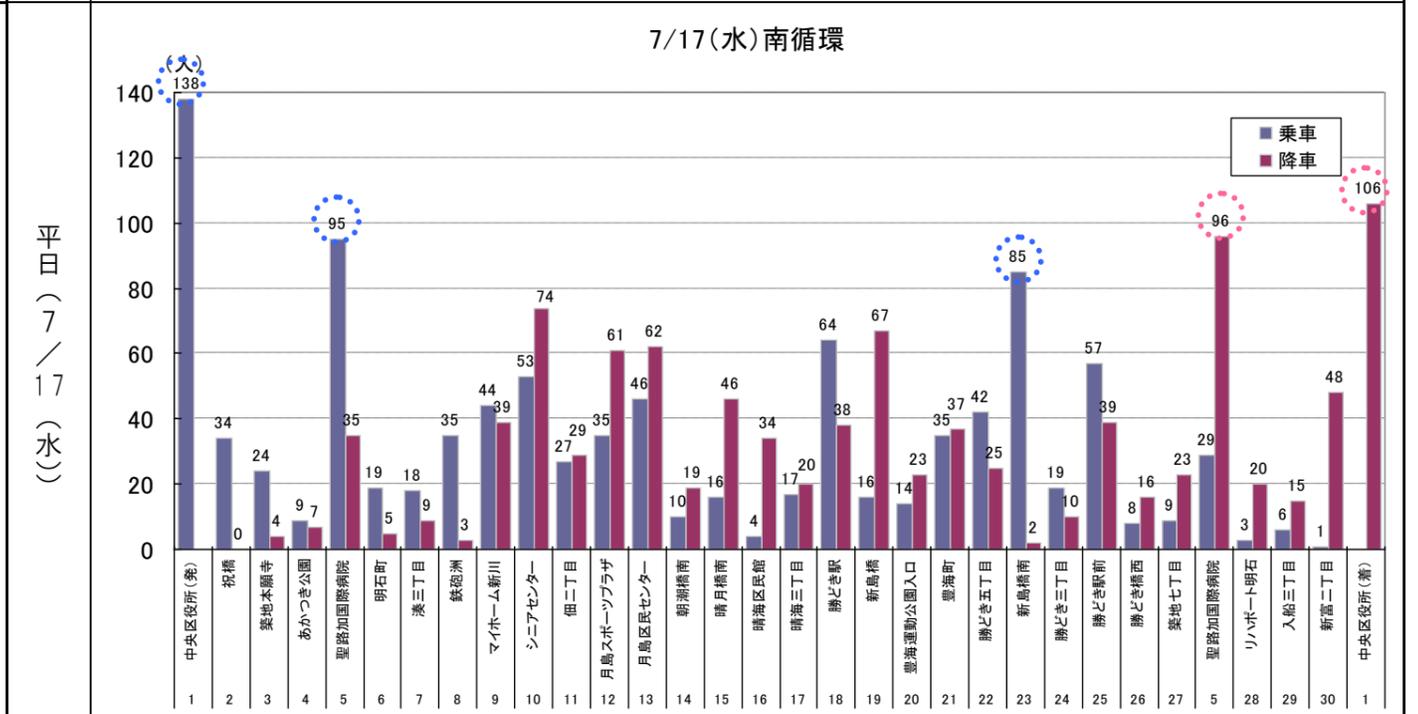
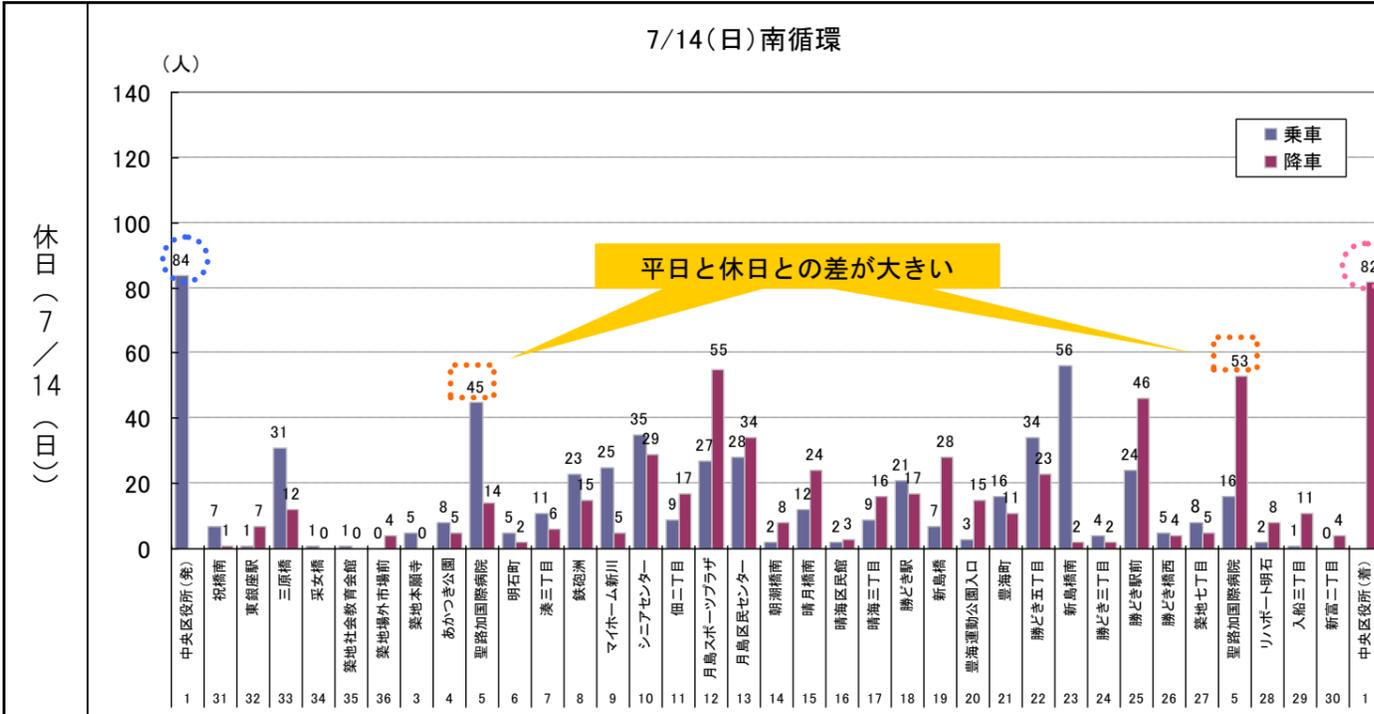
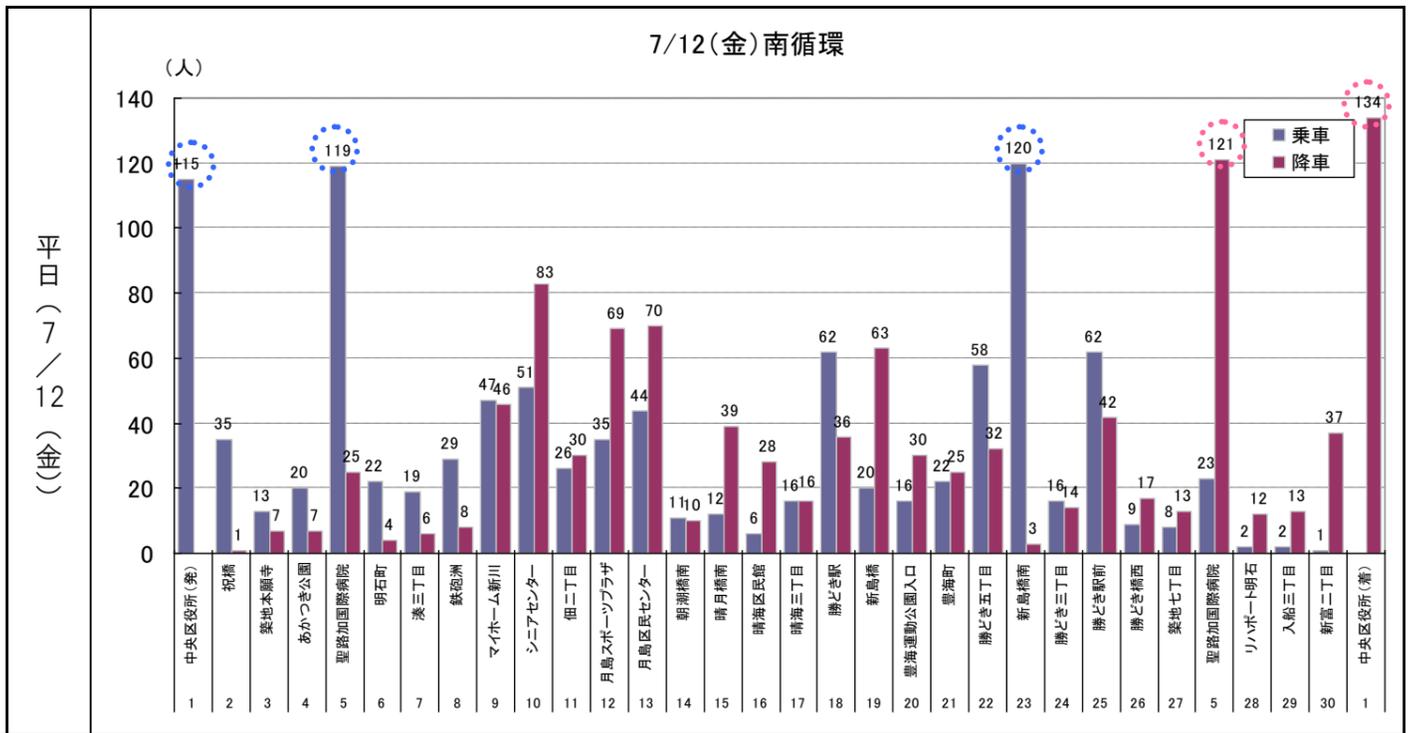
【休日】

- ・休日では、どのバス停も乗客数、降客数が100人以下であり、バス停間での乗降客数の差が小さくなっている。特に「聖路加国際病院」での乗降客数が少なくなっている。
- ・また、休日のみ運行を行っている「祝橋南」～「築地場外市場前」では、銀座に最も近い「三原橋」での乗降はみられるものの、他のバス停では乗降客数が10人以下と少ない。

【平日と休日の比較】

- ・「聖路加国際病院」「中央区役所（発）・（着）」での乗降者数が減少しており、平日と比べると休日では利用客数が特に多いバス停が少なく平準化されている。

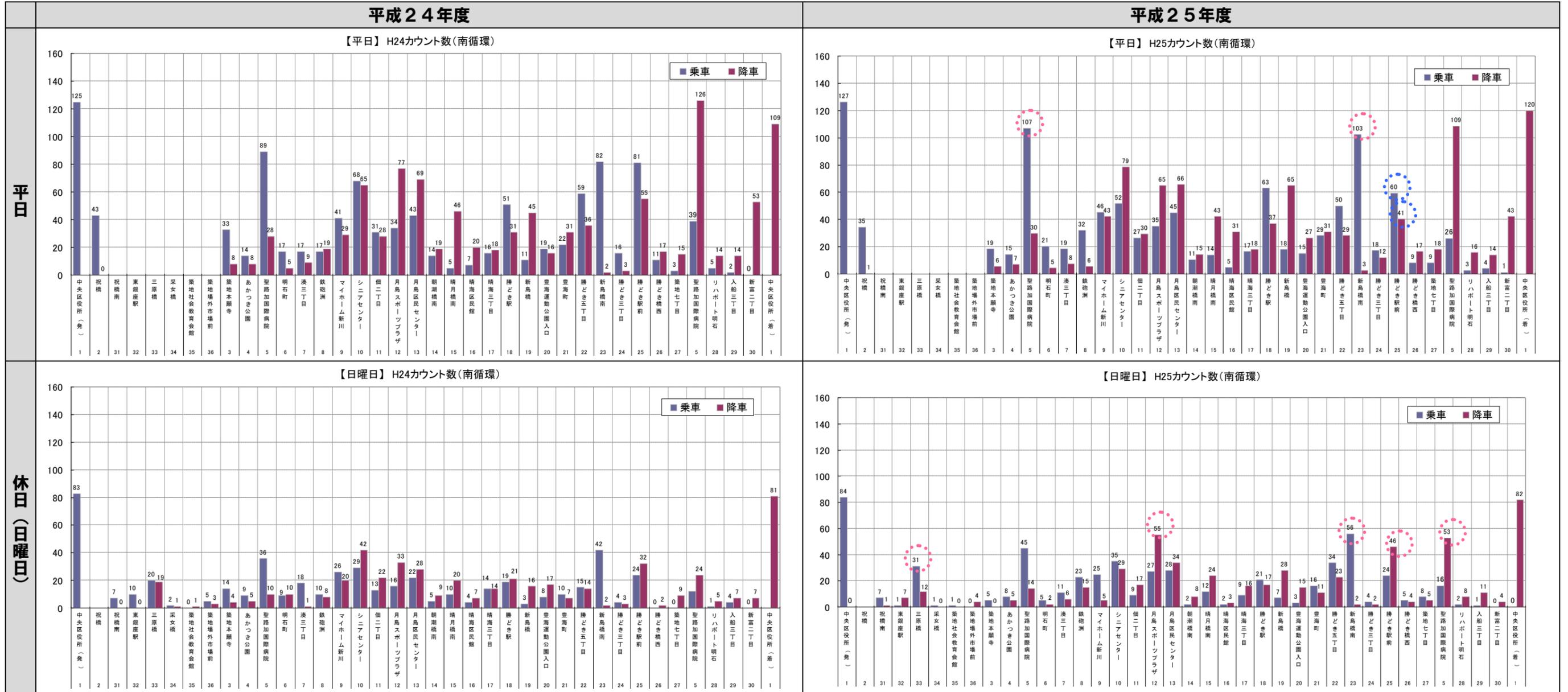
● : 乗客数の多いバス停
● : 降客数の多いバス停



○平成24年度・平成25年度調査時の平日・休日（日曜日）別のバス停別乗降客数の比較【南循環】

- ・平日では、「聖路加国際病院」「新島橋南」での乗客数が20人ほど多くなっている。一方、「勝どき駅前」では乗客数、降客数ともに減少している。
- ・休日（日曜日）では、新たに運行を行っている「祝橋南」～「築地場外市場前」のうち、銀座に最も近い「三原橋」の乗客数は増加している。その他、「月島スポーツプラザ」「勝どき駅前」「聖路加国際病院」の降客数、「新島橋南」の乗客数が特に増加している。

● : 乗降客数が増加したバス停
 ○ : 乗降客数が減少したバス停



※平成25年の平日は調査日2日間の平均値を用いて比較

③ 時間帯別1台あたりの平均利用客数【北循環】

【平日】

- ・どの時間帯においても1台あたり20人/台程度は利用しており、朝夕の利用客数が多い時間帯では30人/台程度となっている。
- ・特に17時台は利用者が多く、40人/台近くになっている。

【休日】

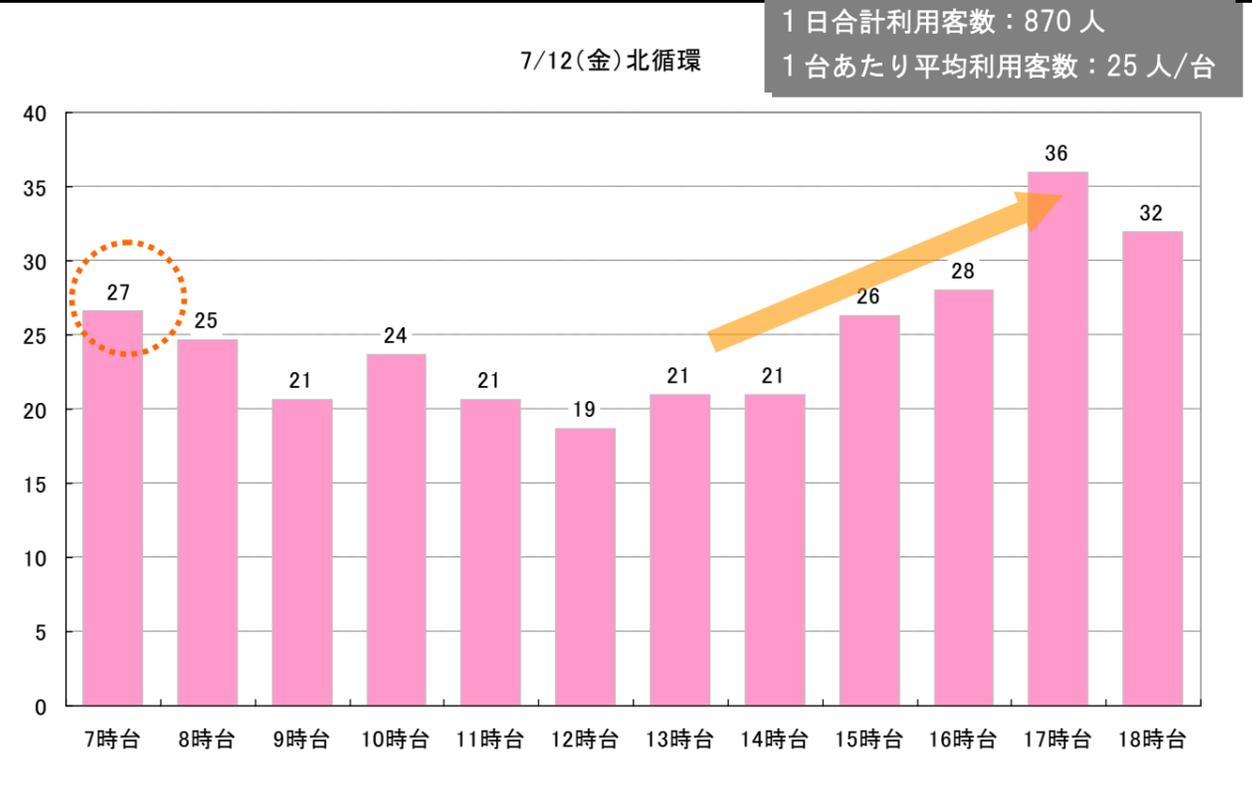
- ・休日の場合、1台あたりの平均利用客数は13人/台であり、10時までの時間帯の利用客数が少なく10人/台前後となっている。午後の時間帯は利用客数が増え15人/台前後が利用している。

【平日と休日の比較】

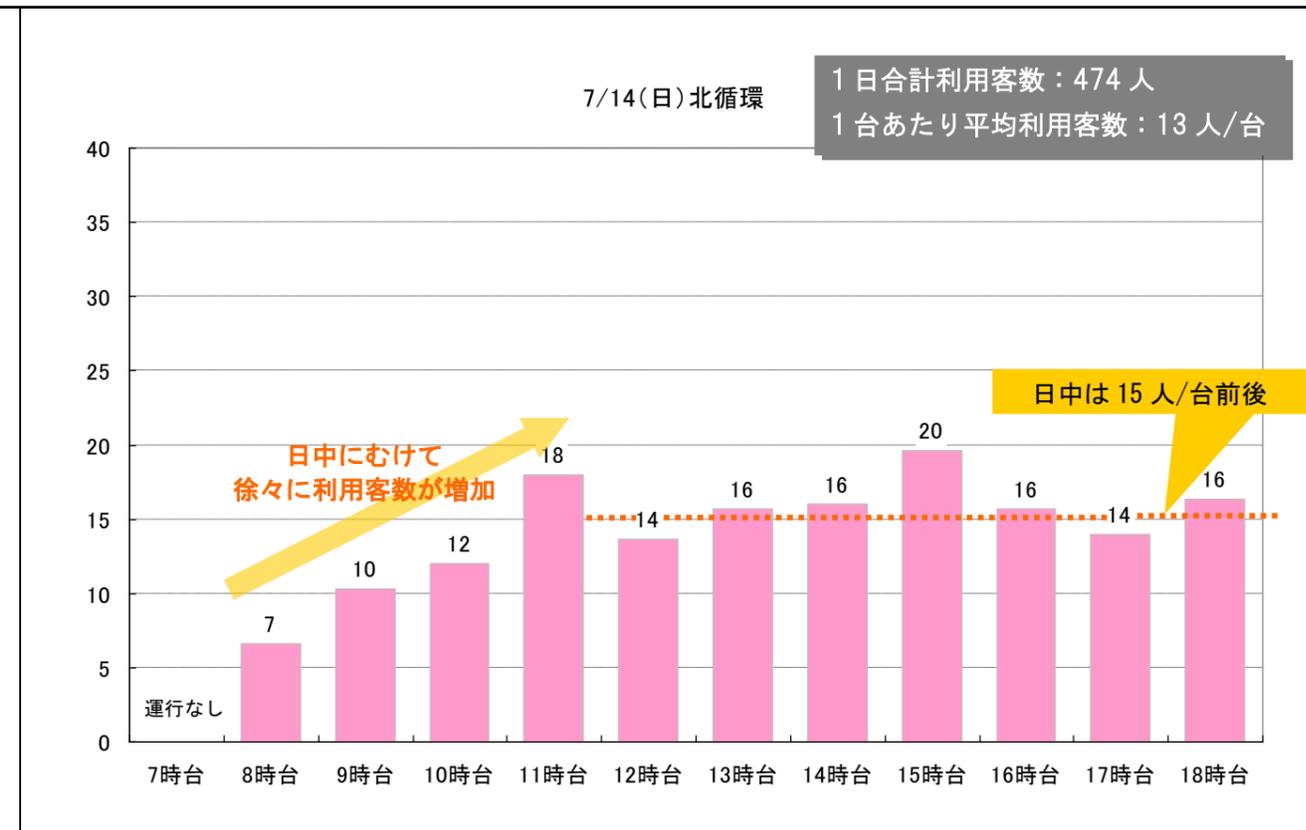
- ・平日に比べると休日では、1台あたり12人程度利用客数が少なくなっている。
- ・平日は朝夕の利用客数が特に多いのに対して、休日は日中に向けて徐々に利用客数が増加しており、平日と休日では時間帯による利用客数の違いが大きくなっている。

平日は曜日によらず同様の傾向

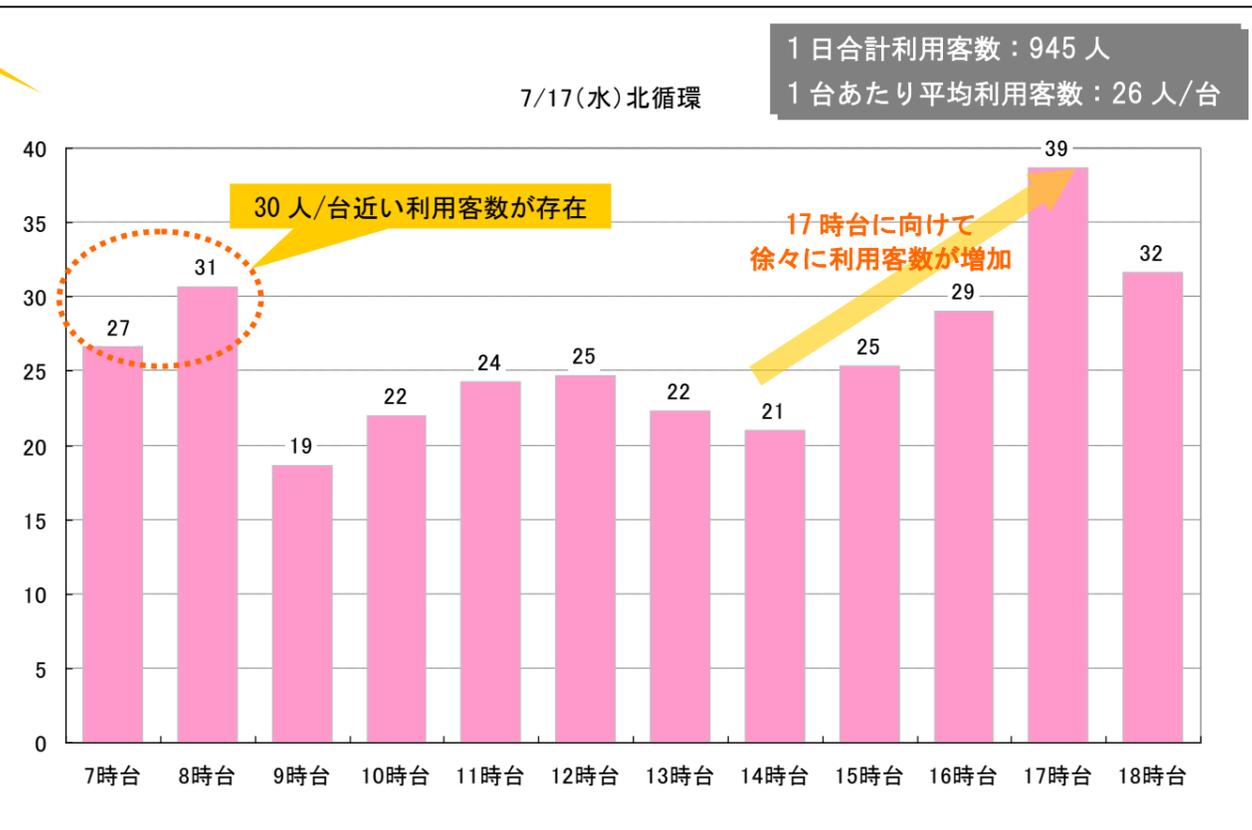
平日 (7/12 (金))



休日 (7/14 (日))



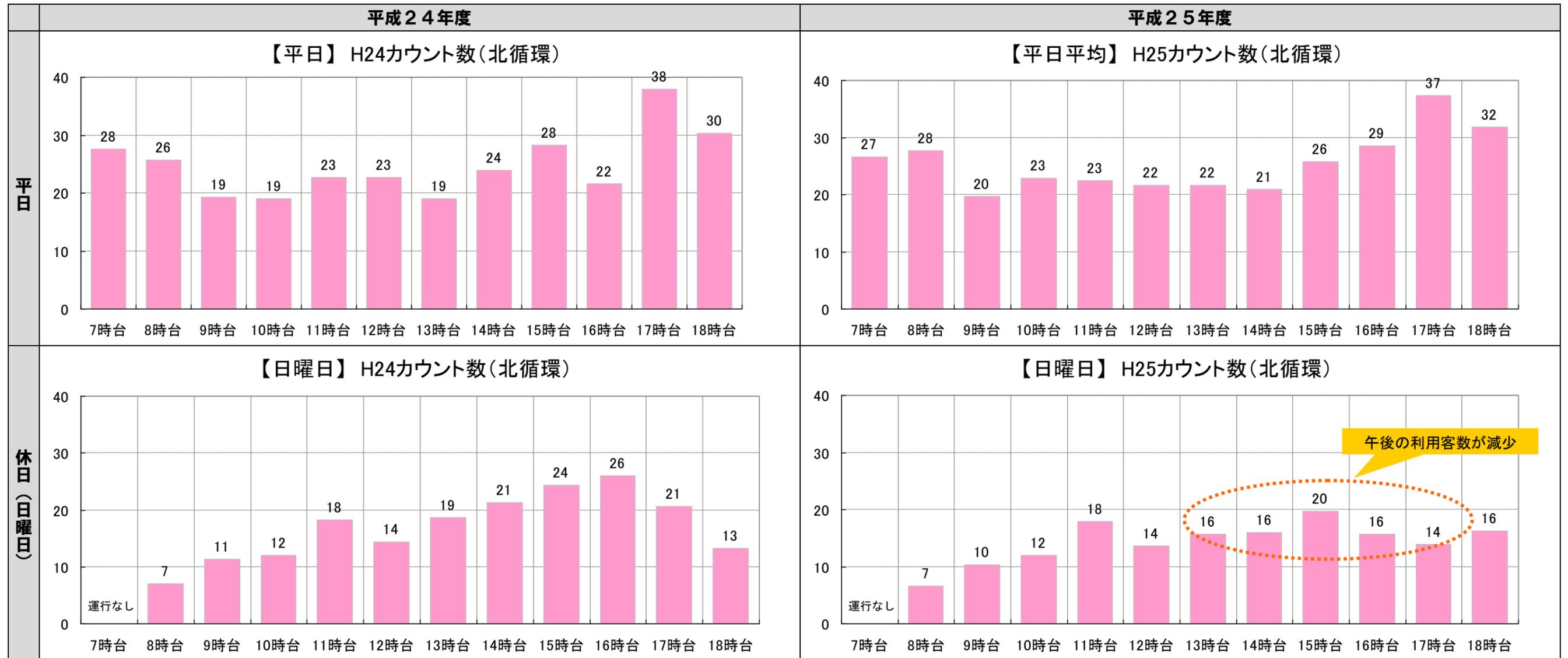
平日 (7/17 (水))



※6：58発の便は7時台に、7：58発の便は8時台に含む

○平成24年度・平成25年度調査時の各曜日の時間帯別利用客数の比較【北循環】

- ・平日では、平成24年度に比べて時間帯別の利用客数に大きな違いはみられない。夕方の時間帯が最も利用客数が多く30人/台以上となっており、次いで朝の時間帯は30人/台弱、そのほかの時間帯では20人/台前後となっている。
- ・休日（日曜日）では、どの時間帯も利用客数が減少しており、特に平成24年度ではピークであった15時台、16時台での減少が大きい。



※6:58発の便は7時台に、7:58発の便は8時台に含む
 ※平成25年の平日は調査日2日間の平均値を用いて比較

④ 時間帯別1台あたりの平均利用客数【南循環】

【平日】

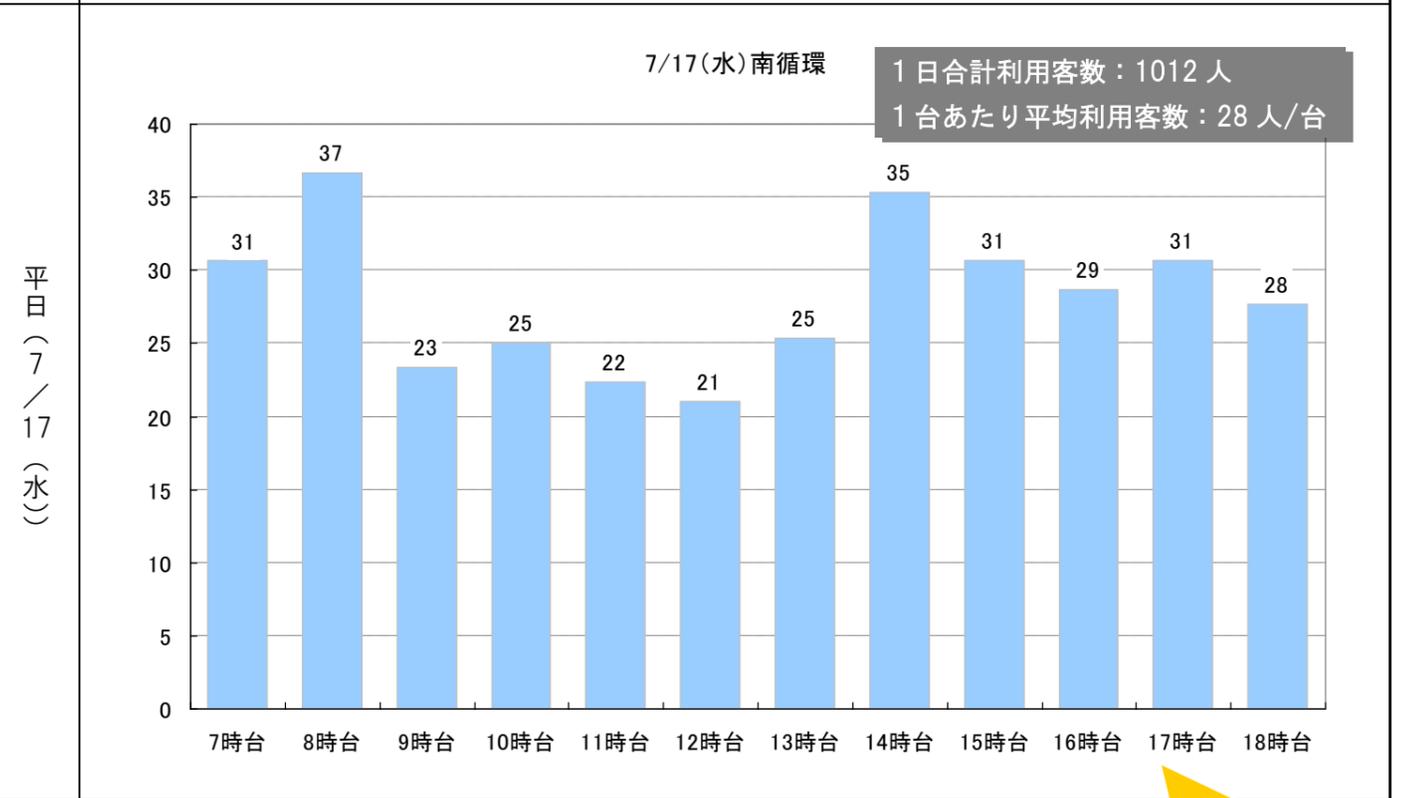
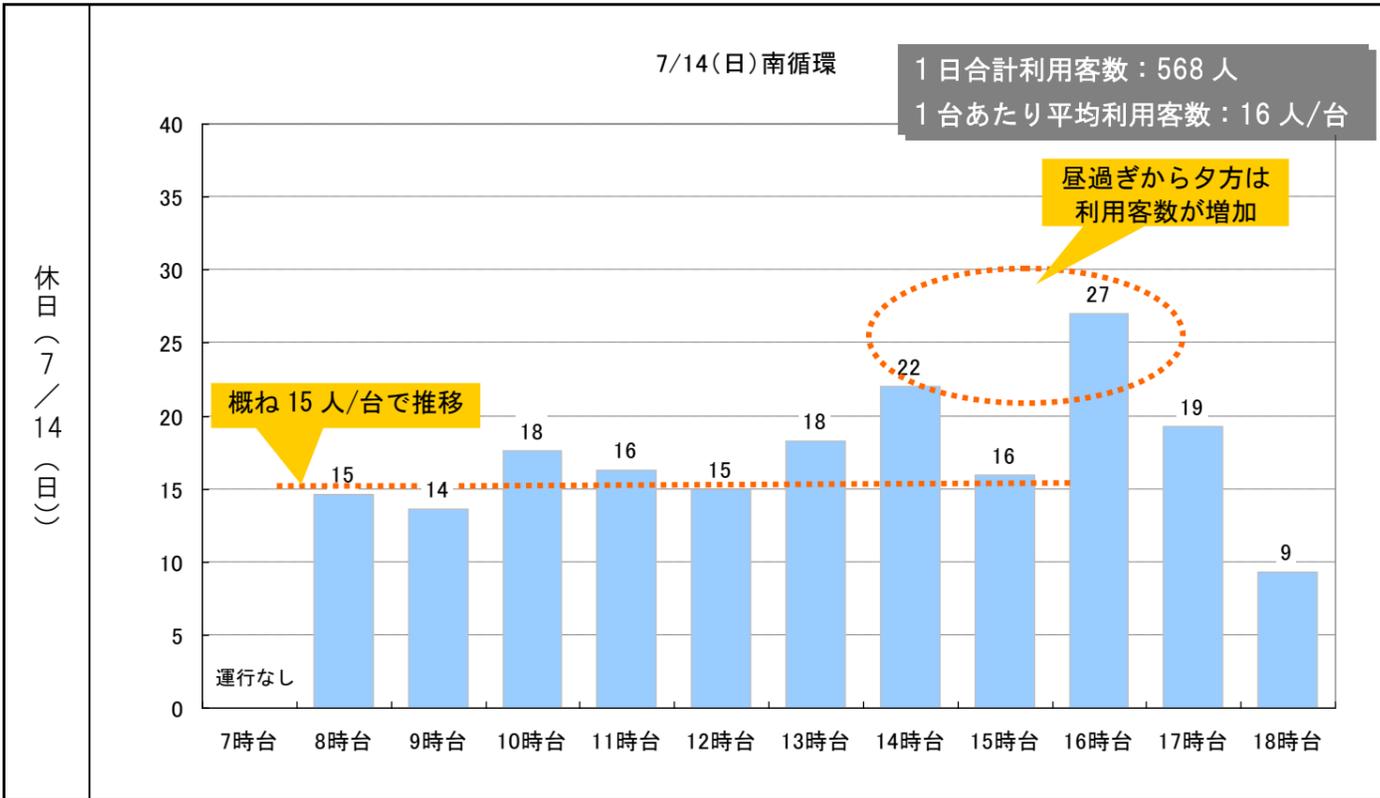
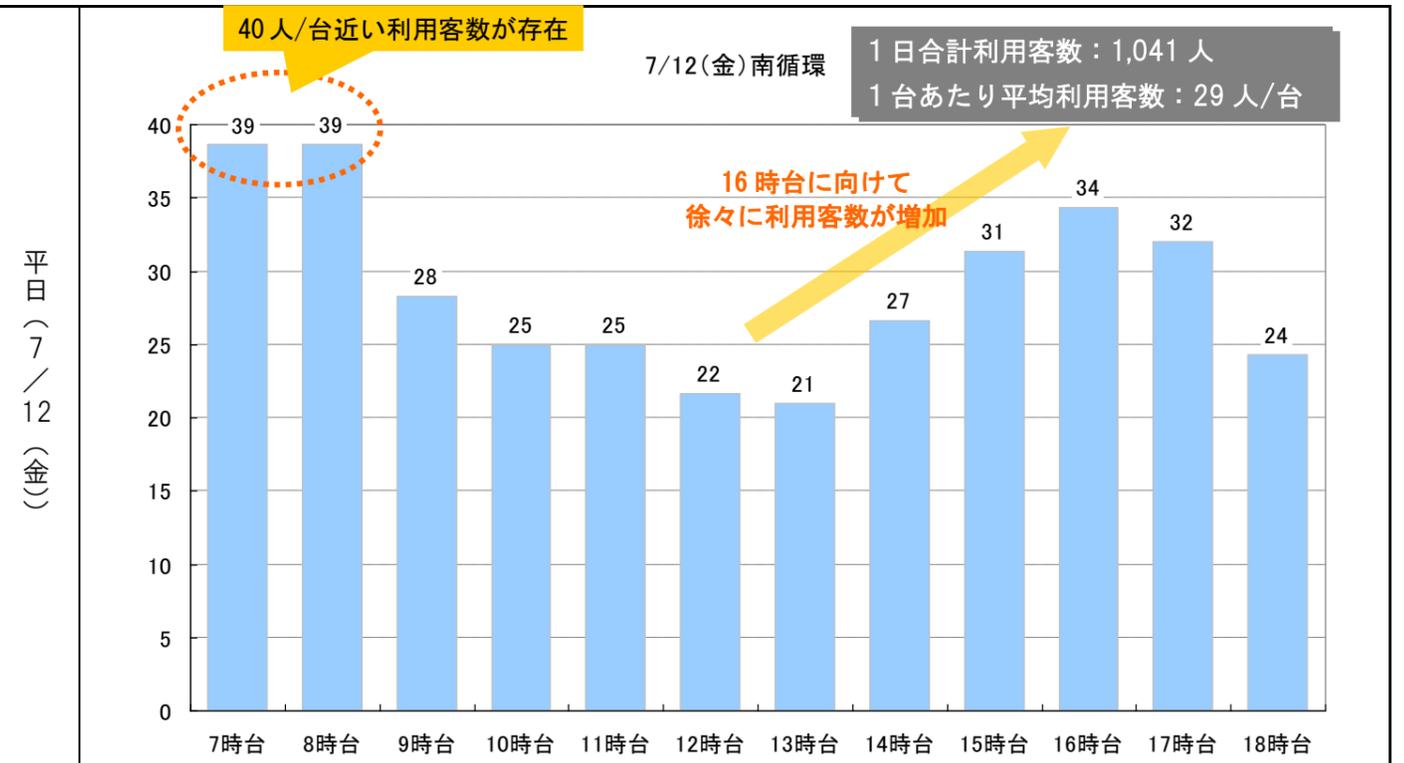
- ・7時台、8時台の利用客数が多く、40人/台近くが利用している。
- ・また、午前中は25人/台前後で推移している利用客数であるが、14時以降は30人/台前後まで増加し、その後徐々に減少している。
- ・北循環では夕方の利用客数が多いのに対して、南循環では朝の利用客数の方が多くなっている。

【休日】

- ・休日は、どの時間帯も概ね15人程度で推移しているが、16時台は27人/台と多くなっている。
- ・18時台は9人/台となっており、他の時間帯に比べて利用客数が少ない。

【平日と休日の比較】

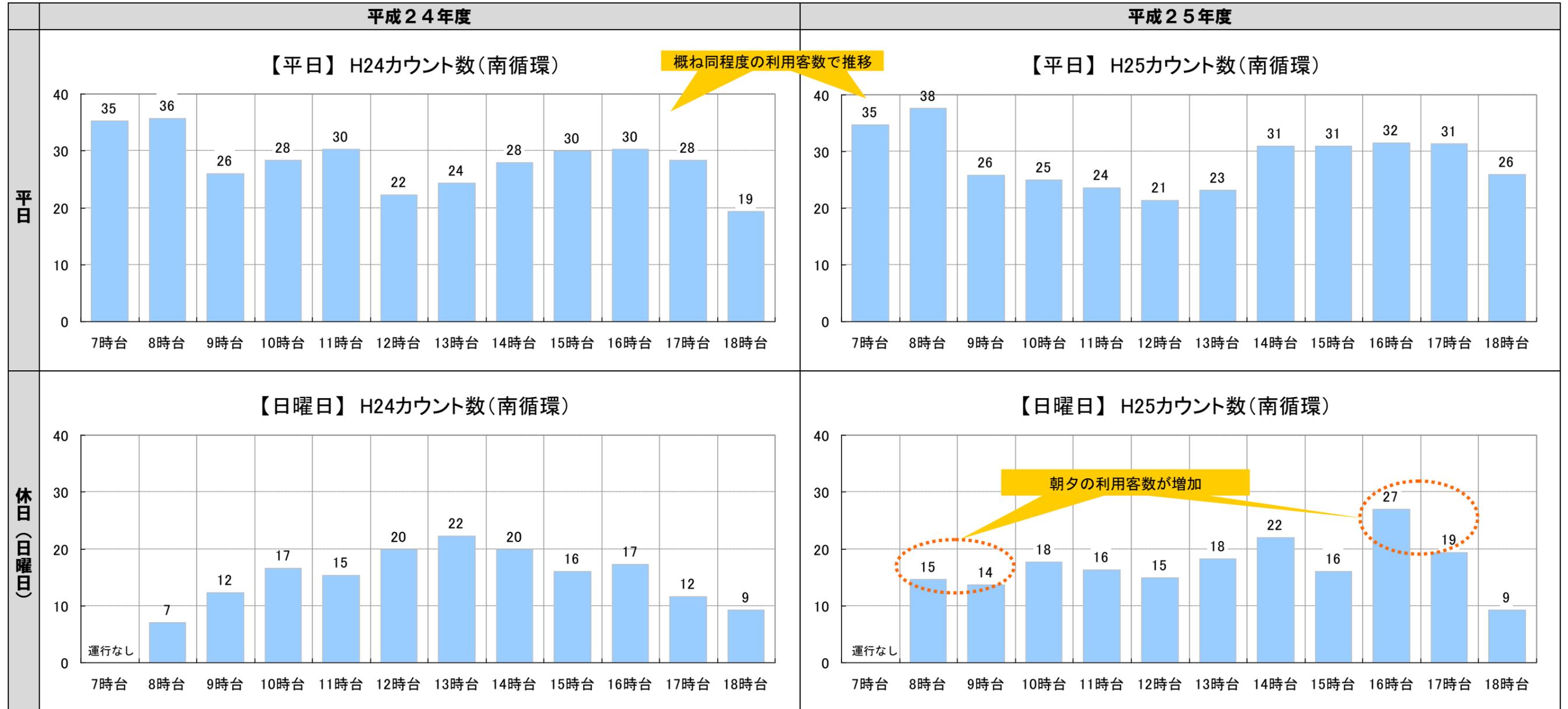
- ・平日は朝の利用客数が多いが、休日では朝の時間帯の利用客数が少なく、時間帯により利用客数の差が小さくなっている。



夕方の利用客数が少ないが概ね金曜日と同じ傾向

○平成24年度・平成25年度調査時の各曜日の時間帯別利用客数の比較【南循環】

- ・平日では、時間帯による利用客数の状況に大きな違いはみられない。7時台、8時台は35人/台程度が利用しており、その後日中は25人/台前後で推移し、14時以降は30人/台前後の利用客数となる。
- ・休日（日曜日）では、昼間（12時台、13時台）を除いて、平成24年度に比べると利用客数が増加している。特に、平成24年度では利用客数が少なかった8時台、9時台の利用が増えており、それによって時間帯による利用客数の差が小さくなっている。



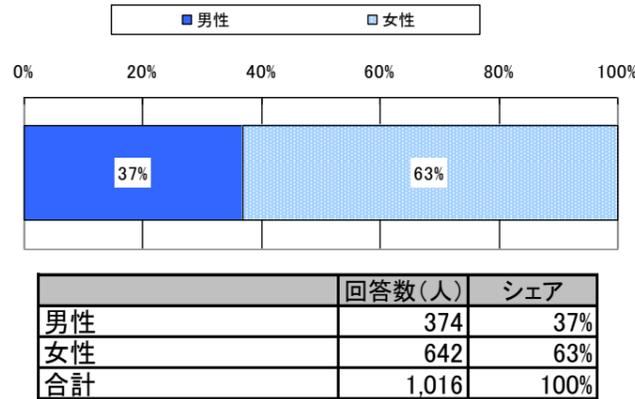
※平成25年の平日は調査日2日間の平均値を用いて比較

III-2. アンケート調査結果

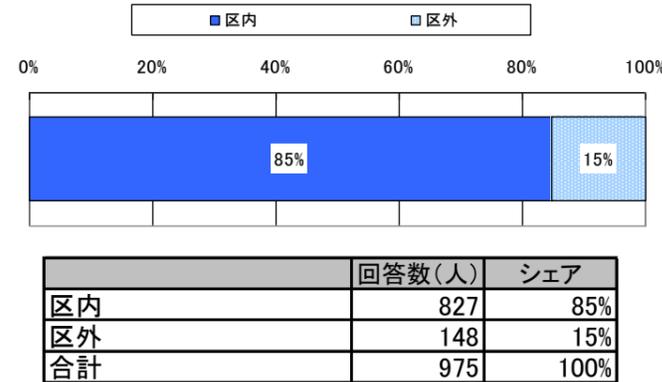
① 利用者の方の属性

- ・利用者の性別は、男性が37%、女性が63%である。
- ・年齢構成は、20代以下の若年層は3%と少なく、一方、60代以上は40%弱を占めている。
- ・利用者の居住地は、中央区内居住者が85%と多くを占めている。
- ・職業をみると「会社員・公務員」が42%と最も多く、次いで「専業主婦・主夫」が20%である。

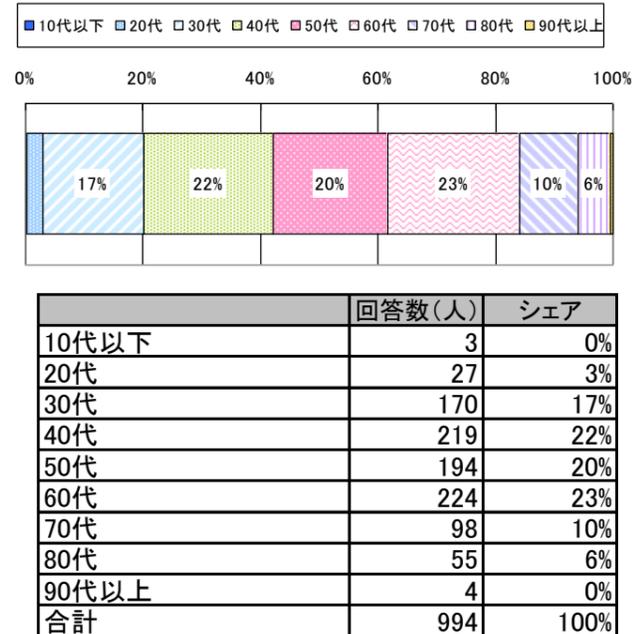
《性別》



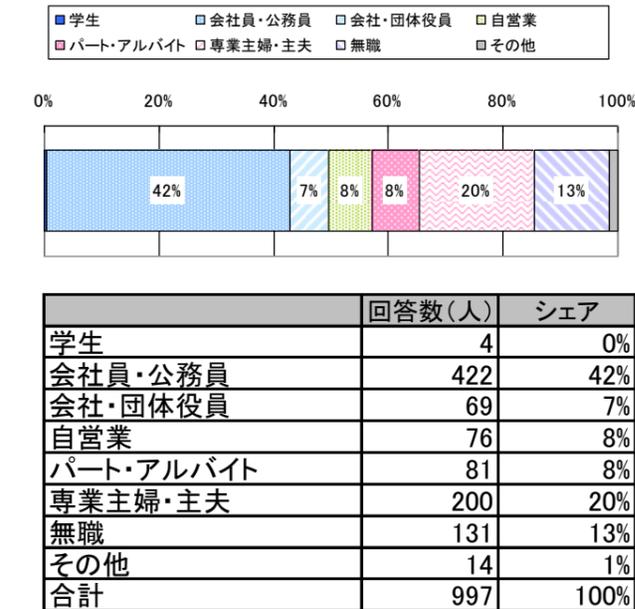
《居住地》



《年齢》



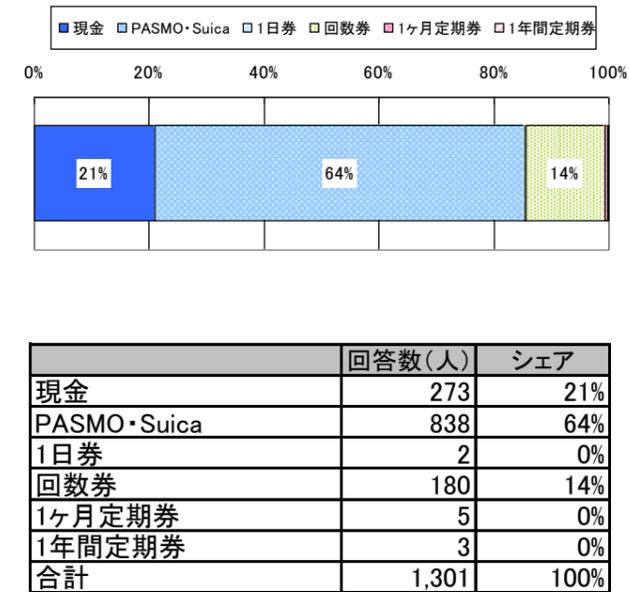
《職業》



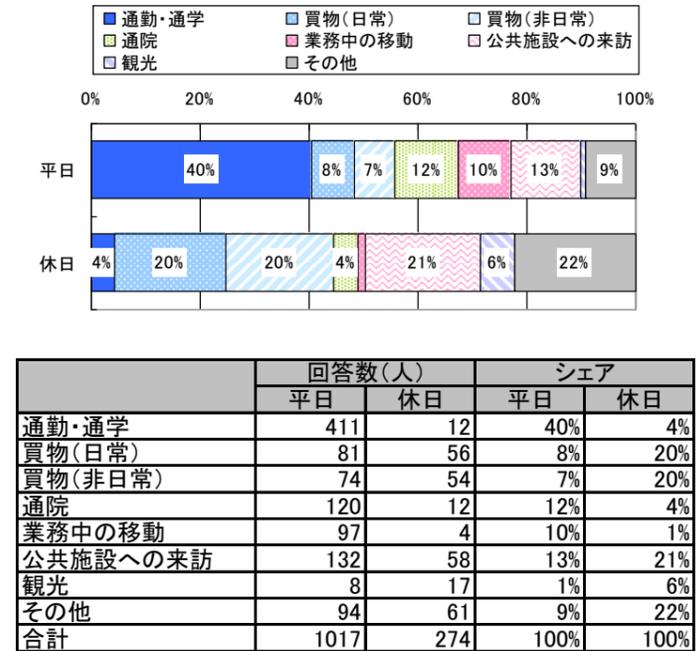
② 利用実態

- ・支払い方法は、「PASMO・Suica」の利用者が64%と最も多く、次いで、「現金」が21%である。
- ・利用目的は、平日では「通勤・通学」が40%と最も多く、休日では「買物」が多く、「買物（日常）」、「買物（非日常）」を合わせると40%である。また、導入目的の1つであった、「公共施設への来訪」のために利用している方が、平日は10%程度、休日は20%程度存在する。
- ・利用頻度は、「週に1・2日」が31%と最も多く、週に1日以上利用している方の割合は60%近くになっている。「週に5日程度」利用している人も12%存在する。

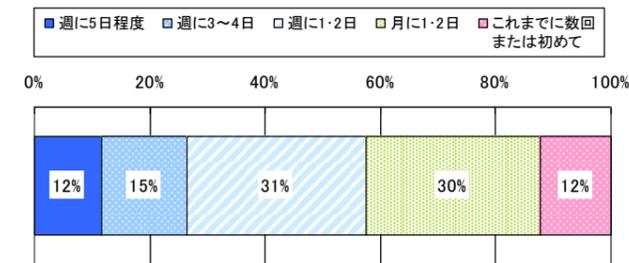
《支払方法》



《利用目的》



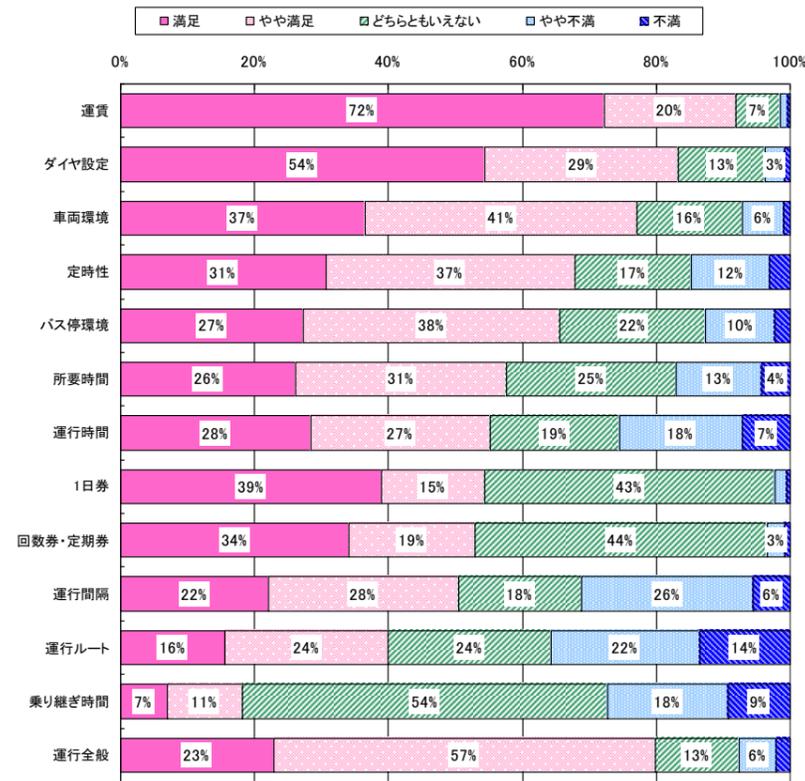
《利用頻度》



③ 運行仕様に対する満足度及び重要度

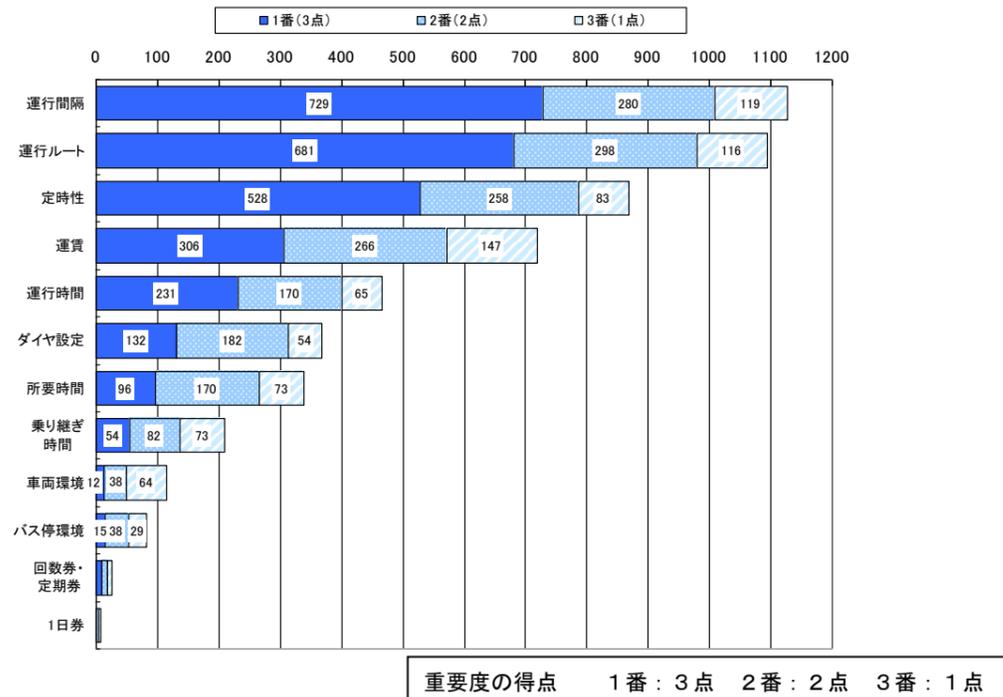
(1) 運行仕様に対する満足度

- ・「満足」「やや満足」と回答した割合をみると、「運行ルート」「乗り継ぎ時間」以外の項目については半数以上の人が満足と感じている。
- ・「運賃（100円）」に対する満足度が90%以上と最も高い一方で、「乗り継ぎ時間」は20%以下と満足度が低くなっている。
- ・各項目に対する満足度には差があるものの、「運行全般」に対する満足度は高く、約80%が「満足」「やや満足」と回答している。



(2) 運行仕様に対する重要度

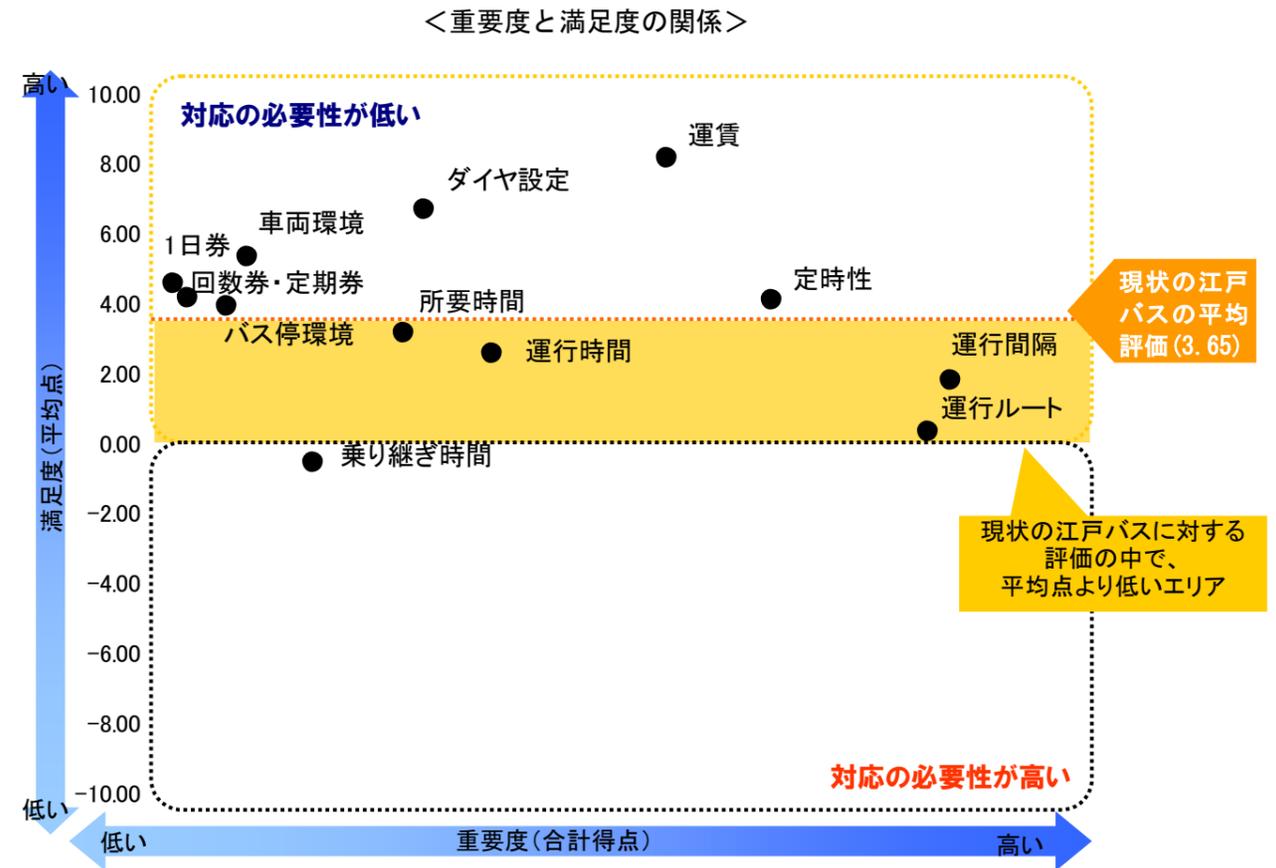
- ・アンケート調査で、上記の12項目について重要だと思うものを順に3つ挙げてもらっており、「1番=3点」「2番=2点」「3番=1点」と項目ごとに換算し、その合計点を比較する。
- ・「運行間隔」「運行ルート」「定時性」「運賃」に対する重要度が特に高くなっている。
- ・一方、「回数券・定期券」「1日券」の重要度は低い。



(4) 満足度と重要度の関係

○満足度と重要度を得点化し、運行仕様に対する満足度と重要度の関係を見る。

- ・満足度の平均に対して、「所要時間」「運行時間」「運行間隔」「運行ルート」「乗り継ぎ時間」は、他の項目と比較して低い評価になっている。
- ・「運行間隔」「運行ルート」については、重要度が高いにもかかわらず満足度が平均以下であり、改善を検討する必要がある。
- ・「運賃」は、満足度が高く、重要度も最も高くなっており、コミュニティバスの魅力の一つの要因になっていると考えられる。



※ 上記のグラフの得点は、下記の考え方で算出している。

【1】満足度(縦軸)

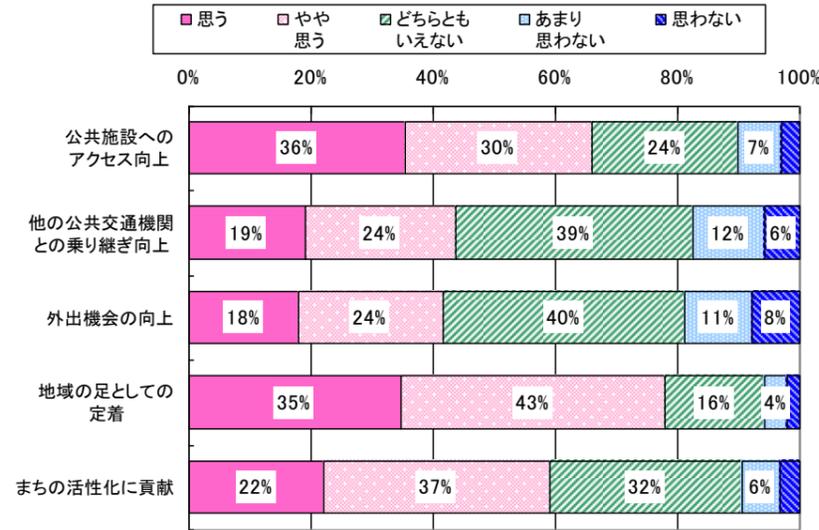
◎頂いたアンケート結果について、「満足=10点」「やや満足=5点」「どちらともいえない=0点」「やや不満=-5点」「不満=-10点」に換算し、項目ごとの平均得点を算出

【2】重要度(横軸)

◎頂いたアンケート結果について、「1番=3点」「2番=2点」「3番=1点」に換算し、項目ごとの合計得点を算出

④ 江戸バス導入時の基本方針の達成度

- ・コミュニティバス導入時の5つの基本方針の達成状況を評価するため、コミュニティバス導入後の変化を質問した。
- ・「地域の足としての定着」については、80%近くの方が、コミュニティバスの導入によって向上したと回答している。
- ・「他の公共交通機関との乗り継ぎ向上」「外出機会の向上」は、満足（思うとやや思うの合計）との回答が半数以下であった。一方、設問の内容を変えた「まちの活性化に貢献」（昨年度までは「賑わいの向上」）については、約60%の方が向上したと回答している。

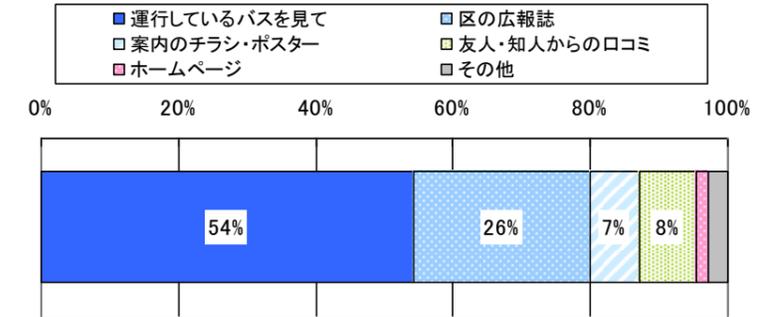


	回答数(人)					合計
	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	
公共施設へのアクセス向上	333	286	224	67	28	938
他の公共交通機関との乗り継ぎ向上	177	226	359	109	53	924
外出機会の向上	165	218	366	100	73	922
地域の足としての定着	328	410	153	36	19	946
まちの活性化に貢献	205	346	294	57	31	933

	シェア					合計
	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	
公共施設へのアクセス向上	36%	30%	24%	7%	3%	100%
他の公共交通機関との乗り継ぎ向上	19%	24%	39%	12%	6%	100%
外出機会の向上	18%	24%	40%	11%	8%	100%
地域の足としての定着	35%	43%	16%	4%	2%	100%
まちの活性化に貢献	22%	37%	32%	6%	3%	100%

⑤ 江戸バスを知ったきっかけ

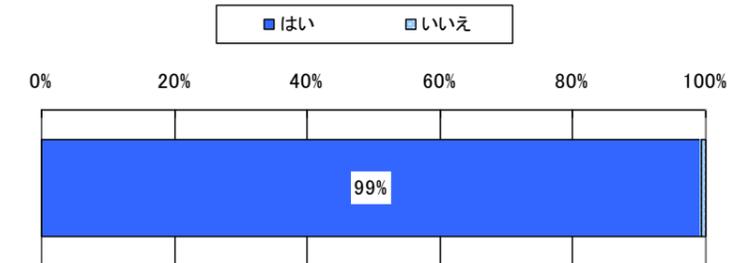
- ・54%と半数以上の利用者が、「運行しているバスを見て」コミュニティバスを知ったと回答しており、次いで、「区の広報誌」を見て知った方が26%である。



きっかけ	回答数(人)	シェア
運行しているバスを見て	545	54%
区の広報誌	258	26%
案内のチラシ・ポスター	70	7%
友人・知人からの口コミ	84	8%
ホームページ	17	2%
その他	29	3%
合計	1003	100%

⑥ 今後の利用意向

- ・今後の利用意向をみると、ほぼ全ての方がこれからも利用したいと回答している。

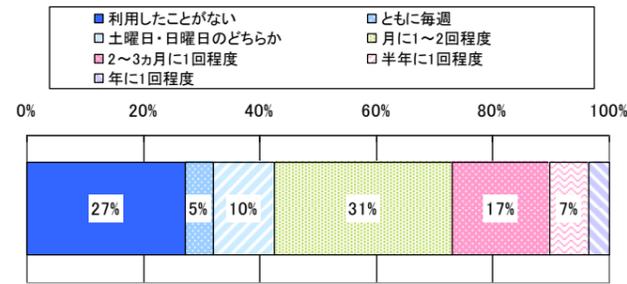


意向	回答数(人)	シェア
はい	976	99%
いいえ	6	1%
合計	982	100%

⑦ 土日・祝日の利用について

(1) 土日祝日の利用頻度

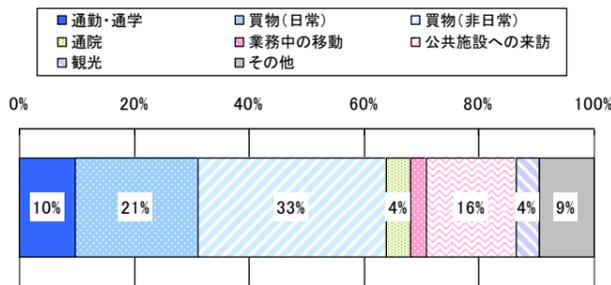
- ・ 土日祝日の利用状況を見ると、利用したことがないとの回答が27%となっている。
- ・ 一方、月に1~2回程度利用するとしている利用者が最も多く31%となっている。



利用頻度	回答数(人)	シェア
利用したことがない	258	27%
ともに毎週	46	5%
土曜日・日曜日のどちらか	98	10%
月に1~2回程度	290	31%
2~3か月に1回程度	158	17%
半年に1回程度	65	7%
年に1回程度	33	3%
合計	948	100%

(2) 土日祝日の利用目的

- ・ 土日祝日の利用目的を見ると、買物（非日常）の割合が最も多く33%である。買物（日常）もあわせると、半数以上が買物目的での利用となっている。
- ・ また、公共施設への来訪の割合も多い。

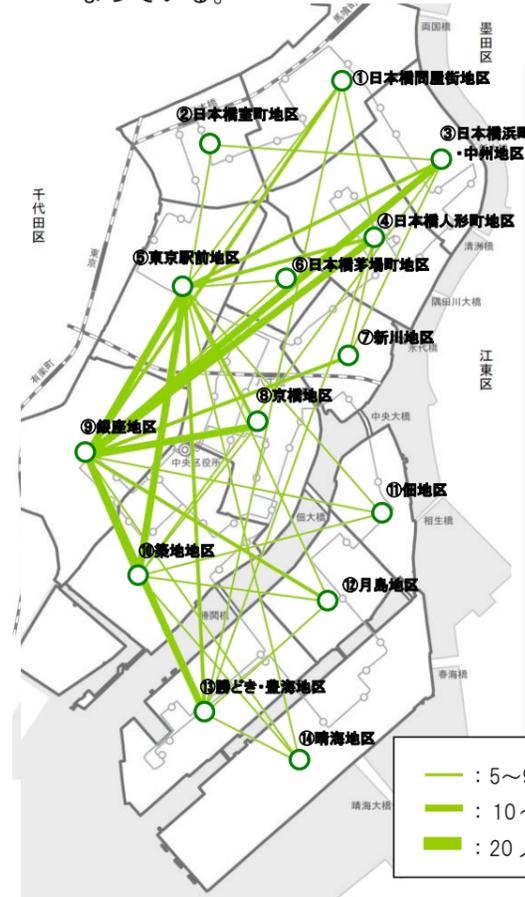


利用目的	回答数(人)	シェア
通勤・通学	59	10%
買物(日常)	128	21%
買物(非日常)	198	33%
通院	26	4%
業務中の移動	16	3%
公共施設への来訪	94	16%
観光	25	4%
その他	57	9%
合計	603	100%

⑧ 運行してほしい区間について

(1) 運行してほしい区間

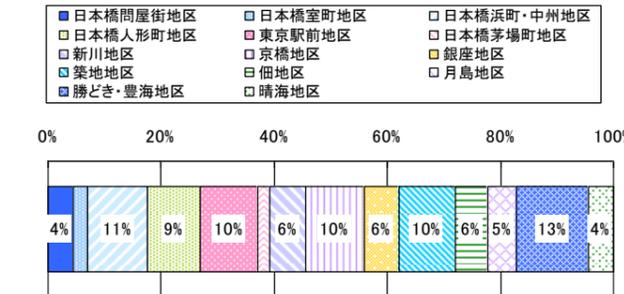
- ・ 江戸バスを運行してほしい区間を見ると、「銀座地区」での降車の要望が多くなっている。
- ・ ODで見ると、「勝どき・豊海地区⇒銀座地区」の要望が最も多く、次いで「京橋地区⇒銀座地区」となっている。



乗	降	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
1 日本橋問屋街地区			2	1	1	7				12	1			1	1	26
2 日本橋室町地区		1		1	1	1	2	1	2	2	1			1		13
3 日本橋浜町・中州地区		3	4	1	1	12	2	2	27	3			1		1	57
4 日本橋人形町地区		5	3	2	2	8	2		1	21	3		2	5	1	55
5 東京駅前地区			1	2	3	2	3	1	6	19	17	1		2	3	60
6 日本橋茅場町地区						2				7	2				1	13
7 新川地区		3	1	4	6	2	1		2	16	2					37
8 京橋地区		1	2	3	1	8				36	3	1	3	2	2	62
9 銀座地区		1	1	7	7	4		3	3	5	4		1	1		37
10 築地地区		1	3	2	9	2	2	2	2	21			2	3	5	56
11 佃地区			1		4	6	1		2	8	7		1		2	32
12 月島地区		1	1		1	6	2	1	1	11	3	2		1		30
13 勝どき・豊海地区		4	2	1	1	8	3		1	41	2	2	7		4	76
14 晴海地区		1	1	1		6			1	7	2	2	3	1	2	27
合計		21	22	25	27	81	17	11	20	233	51	11	21	20	21	581

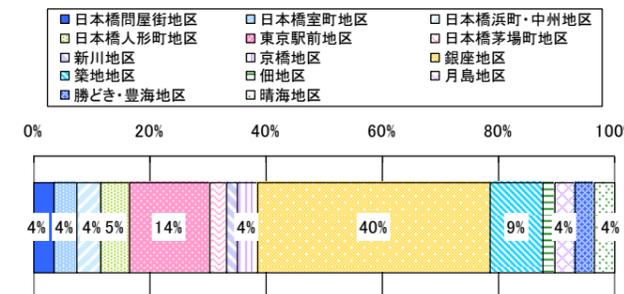
運行希望者が10人以上のOD
※乗降の合計で5人以上が回答している区間のみ表示

問10 運行してほしい地区(乗車)



地区	回答数(人)	シェア
日本橋問屋街地区	27	4%
日本橋室町地区	16	3%
日本橋浜町・中州地区	65	11%
日本橋人形町地区	57	9%
東京駅前地区	62	10%
日本橋茅場町地区	14	2%
新川地区	39	6%
京橋地区	63	10%
銀座地区	38	6%
築地地区	61	10%
佃地区	35	6%
月島地区	32	5%
勝どき・豊海地区	78	13%
晴海地区	27	4%
合計	614	100%

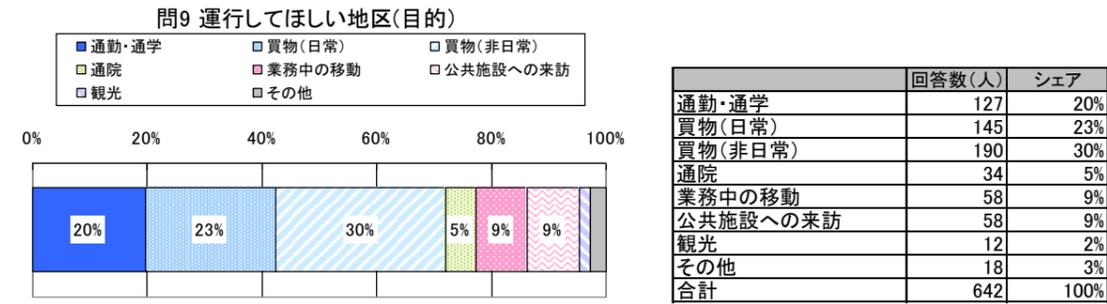
問10 運行してほしい地区(降車)



地区	回答数(人)	シェア
日本橋問屋街地区	21	4%
日本橋室町地区	23	4%
日本橋浜町・中州地区	25	4%
日本橋人形町地区	30	5%
東京駅前地区	82	14%
日本橋茅場町地区	18	3%
新川地区	11	2%
京橋地区	21	4%
銀座地区	239	40%
築地地区	54	9%
佃地区	12	2%
月島地区	21	4%
勝どき・豊海地区	20	3%
晴海地区	21	4%
合計	598	100%

(2) 運行してほしい地区の利用目的

- 江戸バスを運行してほしい地区の利用目的をみると、「買物」が多く、日常、非日常を合わせると50%以上となる。



(3) 今後の運行要望に関する自由意見

- 運行ルートに対する自由意見をみると、これまでと同様にルートに対する要望、特に逆ルートを希望する声が多いほか、ルートの増設や、北循環からの銀座への運行、平日の銀座への運行といった意見が挙げられている。
- また、南北循環の乗り継ぎ時間に関する要望もみられる。